

〈中高保001号〉
令和元年7月27日

保護者様

麻しん・風しん罹患歴（抗体検査）・予防接種歴の調査についてお願い

上宮太子中学校・高等学校
保健室

盛夏の候、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日ごろ、本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、2018年から2019年かけて全国的に麻しんや風しんの患者が報告され、大阪府でも感染が確認されています。今後も例年より増加傾向にあり、注意が必要です。

つきましては、「麻しんに関する特定感染症予防指針の一部改正」を受けて、特に学校における麻しん対策について周知を図るよう通知がございました。

そこで、麻しん・風しんの感染予防の目的といたしまして、「麻しん・風しん罹患歴（抗体検査）・予防接種歴の調査」を実施いたします。

これは、本校における修学旅行や海外留学等に際して、また、卒業後、医療・福祉・教育に関わる進路選択をされた場合は、麻しん・風しんの罹患歴、予防接種歴等の確認が必要となる場合がございます。

なお、この調査票でご確認後、右記の「麻しん・風しん予防対策チャート」を参考に、麻しん・風しんの免疫が不十分な方は、この機会に麻しん・風しん（MRワクチン）の予防接種を受けていただくようにお勧めいたします。

調査対象者 中学校・高等学校 全生徒

調査内容 「麻しん・風しん罹患歴（抗体検査）、予防接種歴に関する調査」（太枠内を記入）
※この調査は、記憶に頼ることなく必ず母子健康手帳等で必ずご確認ください。
※保護者確認欄に保護者名等を必ずご記入、捺印の上ご提出ください。

提出期限 令和元年8月24日（土）始業式
※提出は配布された封筒に生徒名が見えるように封入して提出してください。

お問い合わせ 調査票に関することは保健室までご連絡ください。
予防接種や抗体検査に関することは、かかりつけ医療機関や居住区の保健センター（予防接種担当課）等にご相談ください。

	麻しん	風しん
感染経路	空気感染、飛沫感染（咳、くしゃみ）、接触感染、感染力は非常に強い	飛沫感染（咳・くしゃみ）、接触感染
潜伏期間	約 10 日～12 日（最大 3 週間）	約 16 日から 18 日（最大 3 週間）
主な症状	発熱、全身性発しん、咳・鼻水・目の充血、口腔内にコプリック斑などの粘膜症状、肺炎や中耳炎を合併	発熱、発しん、リンパ節の腫れ
治療方法	治療薬はなく、症状をやわらげる治療	治療薬はなく、症状をやわらげる治療
特徴	世界保健機関西太平洋地域事務局により、日本が麻しんの排除状態と認定。排除後は、海外からの輸入の感染事例のみを認める状況	妊婦が風しんウイルスに感染すると、先天性風しん症候群の子どもが生まれてくる可能性が高い
可能性が疑われ、受診する場合	事前に医療機関へ連絡し、受診の要否や注意点を確認してから、その指示に従って受診してください。 医療機関へ移動される際は、周囲の方への感染を防ぐためにもマスクを着用し、公共交通機関の利用を可能な限り避けてください。	
予防方法	予防接種 2 回の麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン） ※2006 年度から 1 歳児と小学校入学前 1 年間の小児の 2 回接種制度が開始	

* 本校の HP 「School Life」の「Health care room」学校感染症にも詳細を掲載しています。

麻しん・風しん予防対策チャート

文献：「学校における麻しん対策ガイドライン 第二版」

下記のチャートは麻しんに対してですが、風しんについても同じことがあてはまります！

①麻しんの罹患の既往は確実ですか？
(不確かな場合は罹患していなかったものとする)

YES

麻しんに対する免疫を持っているものと考えられます。

NO

②予防接種を 2 回確実に受けていますか？
(不確かな場合は予防接種を 2 回受けていないものとする)

YES

麻しんに対する免疫を持っているものと考えられます。

NO

③予防接種を 1 回は確実に受けていますか？
(不確かな場合は予防接種を受けていないものとする)

YES

以下のいずれかを選択してください。
◎2 回目の予防接種を受ける。
◎医療機関で麻しんに対する免疫調べ、不十分な場合に 2 回目予防接種を受ける。

NO

これまでに 1 回も予防接種を受けておらず、かつ麻しんに罹患していなかったこととなります。

以下のいずれかをせたくしてください。

◎急いで 1 回目の予防接種を受ける。

○医療機関で麻しんに対する免疫を調べ、不十分な場合に予防接種を受ける。

その場合、③の対応となりますが、麻しんの予防接種を 2 回続けて受ける場合、少なくとも 1 カ月以上の期間をあける必要があります。予防接種のスケジュールは医師に相談してください。

上記の流れにおいて、記憶に頼ることなく、母子健康手帳等で調べるなど確実な情報に基づき判断する必要がある。「確実」とは？

1) 麻しん・風しんにかかった記録が残っていること

2) 麻しんの・風しんの免疫があるかどうかを血液検査で調べて陽性であることが確認されていることなどがあてはまる。